



## 学びの主人公は子ども！ スムーズな学びへのアクセスを！

島根県教育センター教育相談スタッフ 特別支援教育セクション

2021年1月、文部科学省中央教育審議会で、学習指導要領に示された資質・能力の育成を着実に進めるために、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が求められると提言されてから、約2年が経ちました。皆さまの学校ではどのような取組をされているでしょうか。特に、「個別最適な学び」については、一人一人の子がその子に合った方法で、その子に合った目標を達成できるような取組が必要になります。

当セクションでは、「通常の学級」にスポットを当て、特別な支援を必要とする児童生徒の理解を深め、児童生徒とのかかわり方や支援について学ぶために、2つの能力開発講座を実施しました。ここでは、「個別最適な学び」をキーワードとして講座を振り返ります。

### 【1215】特別支援教育専門講座

演題：「子どもの実態把握をもとにした ICT 機器を活用する方法や具体的な取り組みについて」  
講師：広島大学学術院准教授 氏間 和仁

学習の目的に迫るための方法等の選択肢として、ICT 機器があります。その利用の段階でこんなことはありませんか？

決まったアプリしか使えない。

キーボード入力しか認められない。

使うタイミングが決まっていて、調べたいと思った時に使えない。

子どもが使いたいと思った時に、子どもの使いやすい方法で、目的に最短距離で到達できるように環境を整えていきましょう。

新たなアプリを使わなくても、Word や PDF などの普段使っているもので支援ができる。

ICT を活用することで、本人が今後も活用できるようにしていく。

支援方法の情報収集だけではなく、児童生徒に合った方法を教員が探りながら、児童生徒と一緒にオーダーメイドとしての方法を見つけていく。

### 【1299】すべての教職員に役立つ！ 支援につながる子どもの理解講座

演題：「子どもの願いに寄り添うための教師の基本姿勢について」  
講師：東京都杉並区立済美教育センター  
指導教授 月森 久江

境界知能の子ども（緩やかに発達する子ども）、自閉スペクトラム症や注意欠陥多動性障がいのある子どもについて、自分ではどうすることもできない生まれもった特性であるという認識をもつことが大切です。

その上で、授業において支援を考える視点はこの3つです。子どもの実態に応じて、この視点に立って支援を考えてみましょう。

○授業における支援を考える視点

①「情報の提示（教師の発問など）」

②「情報を基に考える時間  
（対話による学びの工夫）」

③「考えたことを表現する  
（表現の仕方の工夫）」



このように、能力開発講座を振り返ると、一人一人の得意なことや苦手さを認めつつ、個々の学びを保障するための支援を行っていくことの大切さが分かります。そして、実現の基盤は、何といても「学級づくり」にあると考えられます。

児童生徒にとって、「誰にとっても分かりやすい」教室でしょうか？  
児童生徒にとって、ストレスの少ない「安心して過ごせる」教室でしょうか？



このように、教室環境や学級の雰囲気を整えていくことによって、一人一人の「違い」ではなく「個性」として捉えられ、お互いを認め合いながら、学びやすい方法で学習を行うことができますね。2学期の終わりにあたって、担当している学級の様子を振り返ってみましょう。